

令和6年度
つくば市生活支援体制整備事業
第2層生活支援コーディネーター活動報告書



目次

第 1 章	生活支援体制整備事業の概要	1
(1)	事業の背景～どうして「生活支援体制整備事業」が生まれたのか！～	
(2)	事業の目的と概要	
第 2 章	つくば市生活支援体制整備事業について	3
(1)	つくば市生活支援体制整備事業について	
(2)	各協議体について	
第 3 章	第 2 層生活支援コーディネーター（SC）の取組	4
(1)	生活支援コーディネーター（SC）とは	
(2)	生活支援コーディネーターの業務	
(3)	全圏域の生活支援コーディネーターが共通して行った取組	
(4)	各圏域の取組	
	大穂圏域-----	15
	豊里圏域-----	17
	谷田部西圏域-----	19
	谷田部東圏域-----	21
	桜圏域-----	23
	筑波圏域-----	25
	茎崎圏域-----	27
第 4 章	今年度の振り返りと来年度に向けて	29
おわりに		31

第1章 生活支援体制整備事業の概要

(1)事業の背景～どうして「生活支援体制整備事業」がうまれたのか！～

●少子高齢化により社会保障財政を支える仕組みに危険信号

皆さんもご存じの通り、少子高齢化が進み高齢者を支える若者の負担が増加。

以前は、一人の高齢者を複数で支えていましたが、30～40年後には一人で一人を支える時代が来ると言われている。



●お金もかかるし、人手がない

病気になって身体が不自由になっても、介護保険のサービスを使えば大丈夫！と安心している方も多いが、高齢化とともに介護を必要とする人が増え、財源や人材の不足によってどの世代にとってもよくない事態が起きてしまう。



高齢者世代は…

- ・高い保険料を払うだけで、サービスは使えない
- ・使いたいサービスを、使いたい時に使えない



若い世代は…

- ・保険料の負担増
- ・家族の介護等のために、仕事を続けられない

●介護保険に頼らない備えが必要

上記にある背景を踏まえると、介護保険に頼らない備えが必要になってきている。

具体的には

- ・元気に長く暮らすことができるように健康増進に努める
- ・日常のちょっとした困りごとを地域で協力し合えるような、お互いさまの関係性をつくる など

しかし…

時代の流れとともに生活様式が変化し、地域のつながりが薄れている…

そこで

2015年(平成27年)に介護保険法改正で創設されたのが

「生活支援体制整備事業」

年をとっても誰もが安心して地域で暮らし続けられるよう

「支えあいの地域づくり」 を行うもの



地域に「顔見知り」を増やし、

「お互い様」の気持ちを持ち合うことの再構築が必要！

ちょっとした困りごとは地域の中で協力して解決できることが求められている。

(例) ・足の悪い方のゴミ出しをご近所で協力し合う。

・定期的なラジオ体操で健康づくりと元気に過ごせていることを確認！

・みんなが通える集いの場を作りおしゃべりなどの交流の機会を持つ等

このような繋がりは、困ったことが起きたり、災害等の時にも心強い！

(2)事業の目的と概要

この事業は、「高齢者の地域における自立した日常生活の支援及び要介護状態となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止に係る体制の整備、その他のこれらを促進する」こと(介護保険法第115条の45第2項第5号)とされているが、地域に向けて説明する際には、よりわかりやすく、身近に感じてもらえるよう、「年をとっても、誰もが安心して地域で暮らし続けられるよう、『支えあいの地域づくり』を行う」こととしている。

また、推進したい取組の具体例として、「通いの場」「話し合いの場(協議体)」「見守り・声かけ」「生活支援活動」の4つを例示し、これらの活動を新たに創出したり、既にある活動が広がったりすることで、地域の中での支えあいを進めていくことを目的としている。

通いの場

地域の皆さんが気軽に集まり、体操や趣味活動、お茶飲み会などで楽しむ居場所をつくります。



話し合いの場(協議体)

助け合いや支え合いの仕組みづくりについて、地域住民や関係機関等と一緒に話し合う場をつくります。



見守り・声かけ

地域でさりげない見守り・声かけ活動が広がることにより、信頼関係が生まれ、困りごとに気づくことができます。



生活支援活動

ごみ出し、電球交換、庭木の水やりなど…ちょっとした困りごとをご近所同士で解決できる仕組みをつくります。



第2章 つくば市生活支援体制整備事業について

(1)つくば市生活支援体制整備事業について

つくば市では、生活支援体制整備事業での市内全域についての話し合いの場を第1層協議体として設置している。

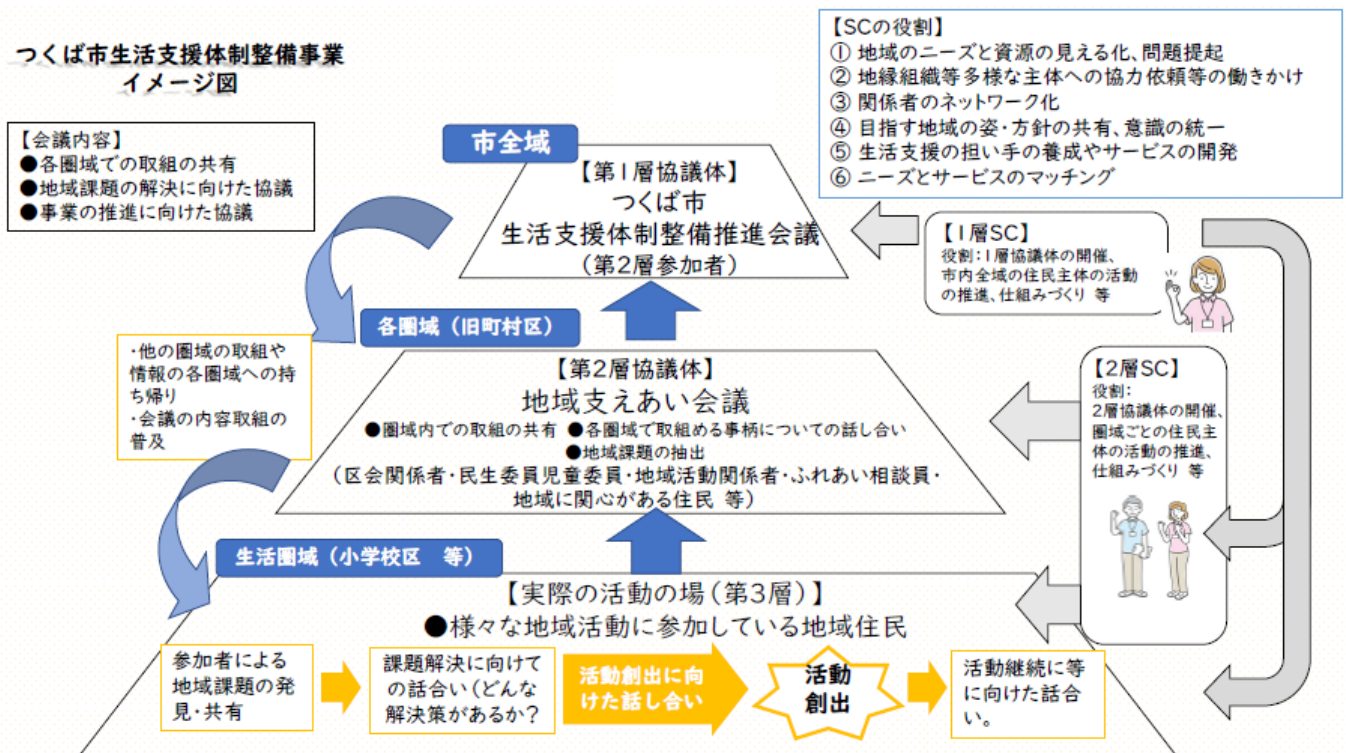
また、日常生活圏域(大穂・豊里・谷田部西・谷田部東・桜・筑波・荃崎)を第2層とし、社会福祉協議会が市から委託を受け、第2層生活支援コーディネーターを配置している。

各圏域には様々な住民主体の活動があり、第2層生活支援コーディネーターはそれらの活動に対しての支援も行っている。

(2)各協議体について

第1層協議体では、市内全域を対象とした「地域での支えあいの仕組みづくり」に向けて、各圏域の第2層協議体の参加者による話し合いを行っている。各圏域での取組の共有による好事例の広がりを目指すとともに、圏域を超えた情報交換を行うことで、つくば市内に共通する地域課題の抽出と、資源開発を図っていく。

第2層協議体である各圏域の地域支えあい会議では、各圏域内での「支えあいの地域づくり」について、民生委員・児童委員、区会関係者、シルバークラブ関係者、ふれあい相談員、地域活動関係者など、地域に関心のある地域住民による話し合いを行っている。この会議では、各圏域の地域性に合わせて地域での取組や地域資源、困りごと(地域課題)、住民の興味、関心、地域課題解決に向けたアイデアなどさまざまな情報を交換し、地域のなかでどのように取組めるのかについて話し合いを行うことで、資源開発が行われることを目指している。



第3章 第2層生活支援コーディネーター(SC)の取組

(1)生活支援コーディネーター(SC)とは・・・

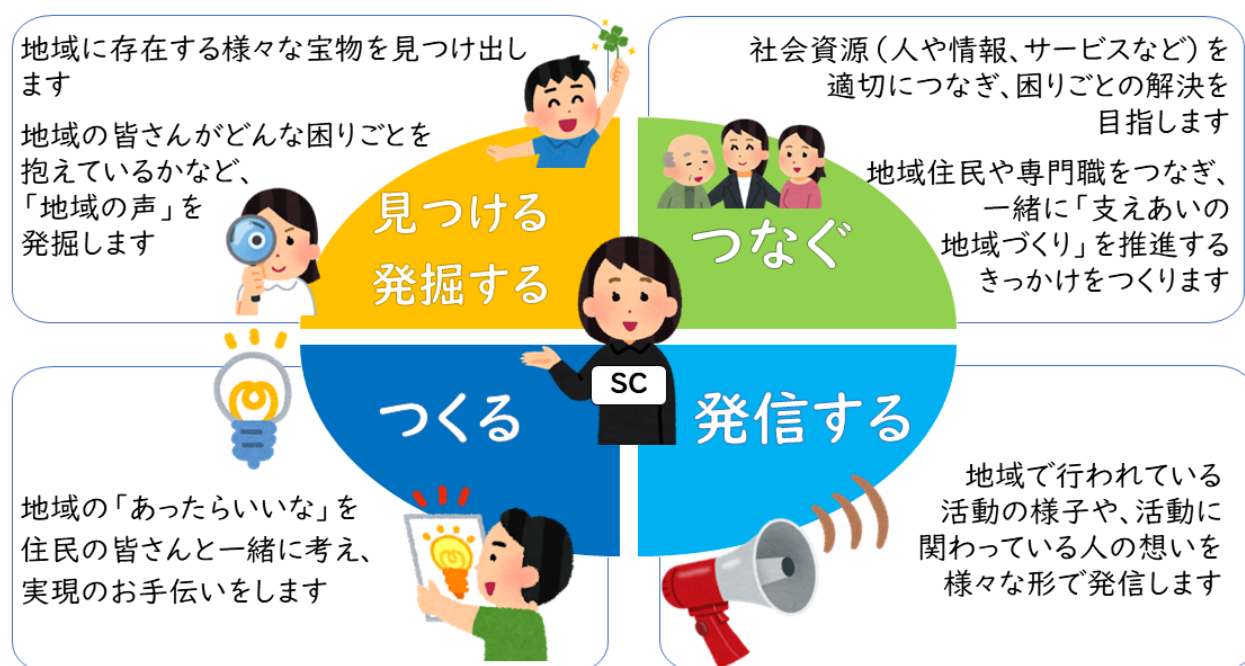
別名「地域支えあい推進員」とし、「地域の皆さんと一緒に支えあいを推進する、地域づくりの専門員」としている。

第2層協議体においては、7圏域に第2層生活支援コーディネーターが配置されている。

【令和6年度】

圏域	氏名	圏域	氏名
大穂	大塚 建吾	豊里	長岡 由佳
谷田部西	堤 あいか	谷田部東	荻生 奈苗
桜	宮川 洋大	筑波	難波 聡子
荃崎	小倉 貴之		

(2)生活支援コーディネーターの業務



(3)全圏域の生活支援コーディネーターが共通して行った取組

① 地域に関する様々な相談への対応

～地域の社会資源(人や情報、サービスなど)をつなぐ～

➡身近な相談窓口となれるよう、地域の皆さんの悩みに寄り添い、日々情報収集に努めている

【具体的な相談内容】

・地域活動をしたいが、どうしたらいいかわからない・・・

⇒活動を進めていくための相談対応、助成金制度などの説明や申請の支援を行った。

・引っ越してきたばかりで知り合いがいない・・・誰かと交流したい・・・

⇒ふれあいサロン、シルバークラブなど交流の場の情報提供を行い、既存の活動につなげた。

・地域で気になる人(見守ってほしい人)がいる・・・

⇒見守り専門員(ふれあい相談員)や関係機関(地域包括支援センター等)と連携し見守りやサービスにつなげた。

② 事業の周知・広報

➡SNS、紙媒体などでの活動報告をはじめ、様々なイベントや会議で生活支援体制整備事業の周知を行った

【社協通信つくば(ささえあい・つくば)】



【生活支援体制整備事業リーフレット】



【第2層 SC インスタグラム】



【イベントでの事業周知ブース】



③圏域を越えたテーマ別情報交換会の開催(3 テーマ)

- ➡同じテーマで活動している団体が地域を越えて交流することにより、地域の支えあいの活動の活性化を図る目的として開催

【テーマ①】「食を通した支援～配食サービスやこども食堂から考える～」

開催日:令和6年7月25日(木) 場所:老人福祉センターとよさと 参加者:29名

【内容】

・第1部 事例発表

「本鎌むつみ会 ～ふれあい弁当活動紹介～」(谷田部西圏域)
「ミンナのためのこども食堂」(豊里圏域)

・第2部 グループワーク

- *テーマ① グループ内での自己紹介、第1部の報告の感想
- *テーマ② 食に関する活動について、「地域」や「住民」が出来ること、始められることは？

【グループワークからでたアイデア・意見】

- *誰もが気楽に楽しく交流しながら食事をとれる場所があるとよい。
- *食の場であり、コミュニケーションの場となっている。
- *活動場所があっても、気軽に出かけられないことが課題。
- *ボランティアを口コミで集めるなど、協力者がいることで心強い。
- *衛生管理が大切。
- *地区ごとに環境は異なるが、長く続けられる活動ができるとよい。

【参加者からの感想】

- *お弁当作り、こども食堂ともに素晴らしい活動をされていて感心した。
- *地域の中で実際に食に関する活動をしている事例を聞けて良かった。
- *作る側と受け取る側の交流が大事だと感じた。
- *やる気がある人と活用できる場所が揃えばすぐに始められると感じた。
- *必要な情報が届かない方がいるので必要な方に届くとよい。
- *衛生面がやはり心配。

【まとめ】

- *食の場を通して関わる人たち(作る人、食べる人、協力してくれる人)が良好なコミュニケーションをとることが出来る。
- *取組むためには一定のハードル(場所、人、お金)がある。



【テーマ②】「集いの場」

開催日:令和6年11月26日(火) 場所:老人福祉センターとよさと 参加者:37名

【内容】

・第1部 事例発表

- ①「カフェ」タイプ…「みずほカフェ」(谷田部西圏域)
- ②「ぷらっと」タイプ…「竹園ぷらっと」(桜圏域)
- ③「ふらっとカフェ」タイプ…「けんがくふらっとカフェ」(谷田部東圏域)

・第2部 グループワーク

- *テーマ① グループ内での自己紹介、第1部の報告の感想
- *テーマ② 「集いの場」について今後の活動のヒントになりそうなこと、情報等の交換

【グループワークからでたアイデア・意見】

- *小地域で様々な集いの場が行われており感動！
- *一人でいることが多いと認知症のリスクがあるため、若いときから通える場所があるとよい。
- *「あの人に会いたい」というくらい楽しいことや時間があると、参加したいと思えるのではないかな。
- *若い世代を巻き込むためには、若い世代の人が楽しめるものを考え内容に取り入れるのかよいのではないかな。
- *ひとり暮らしの男性がなかなか地域活動に参加しないのが課題。
- *高齢化・免許返納などで、「集いの場」にどうやって行けばよいのか」が今後の課題。

【参加者からの感想】

- *つくばの地域差をうまく利用した、地域での工夫を知ることができた。
- *それぞれの団体の悩みを皆で共有することができ、学びがあった。
- *一人暮らしの人がサロンや活動に参加してもらえるような、良い方法があればよいと思う。
- *会場が近くにあればふらっと立ち寄れるカフェも良いと感じた。
- *居場所づくりに関して、多世代で活かせる場があるといいなと思っていたので良かった。
- *日頃子どもにふれることが多いので、子どもも含めた集いの場の話が伺えてヒントになった。

【まとめ】

- *地域の身近な場所に集いの場があることで、住民同士の交流を図ることができる。また高齢者にとっては日々の生きがいづくりや、認知症予防にもつながる。
- *参加者の固定化が課題となっており、新しいメンバー(若い世代など)を呼び込むための工夫が必要。
- *参加者が高齢になり、車や徒歩での参加が難しくなった時の交通手段の確保等も今後の課題。



【テーマ③】「子ども・子育て」

開催日：令和7年1月28日(火) 場所：市役所コミュニティ棟 参加者：26名

【内容】

・第1部 事例発表

- ①「NPO 法人ままとーん」の取組
- ②「つくば de プレイパークひろめ隊」の取組

・第2部 グループワーク

- *テーマ① グループ内での自己紹介、第1部の報告の感想
- *テーマ②「世代を超えたつながりを地域の中でつくるには？」

【グループワークからでたアイデア・意見】

- *「まつり」を活かした多世代交流していくのが良い。
- *プレイパークがあるとよいが、資格の必要性や、活動中の自由と安全のバランス確保が難しい。
- *個人だとできることが限られるため、つながり＝人脈づくりから始めるのが良い。
- *ゆるいつながりでもいいので、つながりあえる場が大切。
- *若い世代と高齢者がなかなかつながりづらいが、70～80代は何かしたいという人が多く、そういった方が何かできる場を創出することを考える。
- *近隣住民の声などにも対応しながら、広め方を考えていくことが課題。
- *学校を開放し高齢者が常駐するなどして、子どもの見守りをしていけるといいのではないかな。

【参加者からの感想】

- *ままとーんの活動は、長く継続されていて素晴らしいと感じた。誰でも幼少時はあり、いずれ面白い大人になるのでこの経験は素晴らしいと思った。
- *今と昔で子どもたちの遊び方が変わっているので、「ひろめ隊」のように場所を提供していくことが必要なのかもしれないと思った。
- *子どもたちが自分のやりたいことをやる、その考えが一番大切だと思う。
- *今日具体的に活動内容を知ることができてとても良かった。
- *子どもは将来の社会の担い手、大人社会は責任をもって育てる必要があると思う。
- *子育て中だからお客さんという姿勢ではないままとーんのあり方が貴重だと思う。例えば市のかつての乳幼児学級のように、お互い支えあう関係が必要だと思う。

【まとめ】

- *子育て世代と高齢者がなかなかつながっていない。まずは、ゆるいつながり・集まりから始めることで、顔の見える関係性をつくっていけると良い。
- *個人でやれることにも限界がある。世代間交流としても、お互いにやってほしいこと・できることを発信していけると良い。
- *子育て世代も高齢者も、お互いに負担にならない程度の役割分担をどう作っていくかが課題。



④つくちゃん地域支えあい助成事業の推進

- ➡地域の支えあいづくりを社協が応援
- ※令和6年度は、12の取り組みを支援

【助成内容・種類】

- 地域支えあい活動立ち上げ事業助成➡年間50,000円(1回限り)
✓地域で支えあい活動を立ち上げたい！始めたい！
- 地域支えあい活動運営助成➡年間30,000円(3回まで)
✓地域で行われている活動を、広げたい！
- ミニふれあいサロン助成➡1回3,000円(年間上限9,000円)
✓みんなの「居場所づくり」をやってみたい！



⑤ふれあいサロン事業の助成

- ➡ふれあいサロンは地域にあったカタチで運営され、体操、音楽、季節のイベントなどを取り入れ楽しく活動

- 登録団体➡89団体(新規1団体)
- ふれあいサロン情報交換会➡2回(うち1回は圏域別で開催)
- ふれあいサロン活動費の助成➡助成総額2,026,000円



⑥コーディネーターのスキル向上

➡ミーティングでの情報共有や、各種研修への参加

□ミーティングの開催➡年 24 回

□各種研修への参加➡全国社会福祉協議会・茨城県社会福祉協議会・さわやか福祉財団

⑦関係機関との連携

➡各種関係機関との情報共有

□1・2 層 SC 情報交換会➡年 11 回

□圏域別ケア会議への参加

□市関係課、関係機関との情報共有

⑧地域福祉アドバイザーとの連携

➡・令和 4 年度から「田園調布学園大学 教授 和秀俊 先生」に地域福祉アドバイザーを依頼
・SCが抱えている課題の解決に向け一緒に考え、他市町村の事例などを用いアドバイスを
いただいている

□情報交換会の実施(年 12 回)

□地域支えあい会議へのゲスト出席(3 圏域)

➡専門家の立場から地域活動へのアドバイス

⑨つくば市シルバークラブの活動支援

➡市内 123 クラブを支援

スポーツや交流の場を通して「生きがい・健康づくり・介護予防」につながる活動を行っている。



⑩地域見守りネットワーク事業の推進

➡今は健康だけど先々が不安、一人暮らしは何となく心細い、突然大きな災害が起こったら…など様々な不安を少しでも減らし、地域で安心して暮らし続けられるよう、住民同士が協力して見守りのできる仕組みづくりを推進

*ふれあい相談員による見守り推進

➡身近な地域に住む「ふれあい相談員」や「見守り支援員」が、見守りを希望し対象者として登録して頂いた方のお宅への定期的な訪問や、日常生活の中でさりげない「見守り」をしている。
また、必要に応じて、専門機関や行政と連携し、さらなる安心につなげている。

□ふれあい相談員(118名)による見守り活動(通年)

□ふれあい相談員懇談会(28回:7圏域)

*地域見守りネットワーク会議

➡関係者間(ふれあい相談員、民生委員、区会関係者、地域活動関係者など)の地域の見守りに関する情報共有を行い連携体制構築

□小学校区単位などでの地域見守りネットワーク会議の開催(22回:7圏域)



*地域の顔見知り拡大事業

➡歩いて集まれる範囲で、ラジオ体操機器を貸出し、定期的にラジオ体操を行うことで顔見知りの輪を広げる場をつくり、集まる方々の体調変化や安否確認、災害時などに声を掛け合える関係づくりの拡大推進

□ラジオ体操ブービーの貸出(3ヶ所)



*地域の絆フォーラム 2025(2/19 開催:参加者 150 名)

- ➡地域見守りネットワーク事業を、広く市民に知ってもらう機会として、また、様々な立場の方の発言や議論を通じ、地域における連携のあり方やお互いに気かけあうことの必要性について考える機会として、フォーラムを開催

【第 1 部】

基調講演 テーマ:「災害時に気づいた、顔見知りの大切さ！」

(講 師)

石巻市民生委員児童委員協議会

会長 蟻坂 隆 (ありさか たかし)氏



【第 2 部】

シンポジウム「日々の地域活動が災害時の強みとなる！」

(コーディネーター)

日本社会事業大学院 福祉マネジメント研究科講師

北川 進 (きたがわ すすむ)氏

(シンポジスト)

○筑波地区民生委員・小田地区いきいき会議

白石 通 (しらいし とおる)氏【筑波圏域】

「複数区会の連携に向けた取り組みと課題」

○荊崎地区民生委員・梅ヶ丘茶話会

代表 深利 正子 (ふかとし まさこ)氏【荊崎圏域】

「ふれあいサロンをはじめとする 様々な地域活動を通じた地域のつながり」



【まとめ】

- *実際の災害時に「顔見知りから助けた」状況があったとのこと。災害が起きたから助け合うのではなく、防災は日常の助け合いがあって達成されとの話が印象に残った。
- *日頃からのつながりが災害時だけでなく、地域での暮らしの様々な助けにつながるため、日々のあいさつや、会話などができる関係づくりの積み重ねが大切である。

(4)各圏域の取組

□地域支えあい会議(第2層協議体)

➡「支えあいの地域づくり」を進めていくために、「お互いに支えあいながら、地域で楽しく暮らして行くためにはどうすればいいか?」をテーマに、話し合う場。(14回:7圏域)



支えあいの地域づくりは地域の様々な立場の方々が、顔を合わせ、話をすることから始まる。テーマや進め方、参加者は圏域によって様々であるが、いま住んでいる地域が、「どんな地域になっていったらいいだろう?」「地域にどんな仕組みがあったらいいだろう?」などについて、参加者同士での情報交換をしながらみんなで話合う。

【各圏域の状況】

【大穂圏域】

人口:20,277 名 高齢化率:21.75%

- ・ほぼ平坦で、田畑や芝畑が広がっている地域も見られる。
- ・筑波研究学園都市建設により、振興住宅地域が開発され、主に地区の東側には国や民間の研究機関等もあり、近隣には商業施設が点在している。

【筑波圏域】

人口:16,406 名 高齢化率:38.72%

- ・市内の最北部に位置し、筑波山を中心として筑波山神社やつくば道などの観光スポットが点在し、市の貴重な観光資源となっている一方、ハザードマップでは広範囲の地域が水害や土砂災害の警戒区域となっている。
- ・住民同士のつながりが残る地域ではあるが、子どもや若い世代が減少しつつあり、高齢化率は市内で一番高い。

【桜圏域】

人口:62,169 名 高齢化率:15.21%

- ・中心部は、つくば駅を中心にマンション、戸建て、商業施設が増加。周辺部は、昔ながらの街並みや田畑も多い。
- ・人口増加率や高齢化率の差が大きく開いているなど、圏域内でも地域の特徴、課題は様々。

【豊里圏域】

人口:16,264 名 高齢化率:25.20%

- ・地区の西部は昔ながらの集落でまとまりがあるため、伝統行事などが続けられている地区が多い一方、少子高齢化が進んでいる。
- ・東部は造成された団地やアパートがあるなど市の中心部に近いため、若い世代が多く住む便利な地域であるが、区会未加入の世帯も多い。

【谷田部西圏域】

人口:52,402 名 高齢化率:15.46%

- ・昔ながらの街並みが残る農村部、筑波研究学園都市建設や東京一極のベットタウン不足による昭和 50、60 年代にできた団地もある。
- ・つくばエクスプレス(TX)開発などの影響による移住者もあり、人口は増加している。

【谷田部東圏域】

人口:68,039 名 高齢化率:12.63%

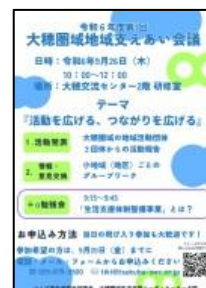
- ・昭和 40 年以降、筑波研究学園都市建設により商工業が活性化し、道路整備や住宅・団地・工場・緑地公園等の開発も進み発展してきた。
- ・近年は、つくばエクスプレス(TX)開発に伴う、都市開発も目覚ましく、県内外から多くの転入者が増加の一途をたどっている。都市機能と自然が融合した利便性の高い環境である。

【茎崎圏域】

人口:22,788 名 高齢化率:38.05%

- ・高齢者数が多く、75 歳以上の後期高齢者の割合が特に高くなっている。高い高齢化率に比べて、介護保険認定者の割合は低いことが特徴である。
- ・定期的な行事や昔ながらの地区イベント、奉仕活動など活発に活動が行われている。

※人口・高齢化率【令和 6 年(2024 年)10 月 1 日現在:住民基本台帳】より



第1回 活動を広げる、つながりを広げる

【ねらい】

- ・団体からの活動発表を通して、大穂圏域内の活動を知る ⇒情報共有の場とする
- ・活動を参考に、自分たちの地域にある「活動」や「つながり」を広げるためにできることを考える

【工夫】

- ・支えあい会議についてコアメンバーと話し合い、内容・方針を決定
- ・「他の地域活動の話を聞きたい」という参加者からの意見を反映し、大穂圏域内で活動する3団体からの活動発表を実施
- ・発表する団体の選定を工夫した
⇒地域性、取り組みの異なる団体を選定

【内容】

* 事業概要、令和年度の振り返り

* 活動発表

- ①FF会(花畑地区)
- ②上内夏祭り(前野上内地区)
- ③大砂さくら会(大砂地区)

* グループワーク

自分たちの地域にある「活動」や「つながり」を広げるためにできることは何か？

【参加者の意見】

- ・民生委員などの役職を終えても、見守りを継続してくれたらうれしい
- ・各地区に残る昔ながらの風習は、簡素化されていることが多いため、一つだけでも手間や時間をかけるものを残していくと良い
- ・今あるものを継続していくことは難しいが、続けることで世代を超えたつながりが生まれたら良い

第2回 担い手・新たな人とのつながり

【ねらい】

- ・すでに地域の中にある活動・仕組みなどを継続していくために、共通の課題でもある「担い手」について考える機会とする
- ・「新たな人」を地域活動に巻き込んでいくことについて、各地区ごとにできることを考える

【工夫】

- ・テーマに沿った活動発表となるよう団体を選定し、他圏域の団体からの発表も取り入れた
- ・誰でも会議に参加できるようチラシを作成し地域に広く呼びかけを行った
- ・前回の参加者に相談しながら、参加の少ない地区に個別に声かけを行った



【内容】

* 事業概要、振り返り

* 活動発表

- ①吉沼マルシェ(吉沼地区)
- ②竹園ぷらっと(桜圏域:竹園小学校区)

* グループワーク

自分たちの地域や活動に「新たな人」とつながっていく、巻き込んでいくために必要なことは何か？

【参加者の意見】

- ・発表団体の様々な取り組みによる「誰も取りこぼさない地域づくり」がすばらしいと思った
- ・伝統を活かした多世代交流や学校との連携をしていくことで、新たな人とのつながりをつくっていくことが必要だと思った
- ・地域でボランティアを行っている団体などを活動に巻き込む
- ・社会資源集を利用して、資源同士のつながりづくりをしていく

SCが関わった事例紹介

Case01 話し合いから生まれた「集いの場」

～ふれあいサロン 大砂サクラ会の立ち上げ支援～

ニーズ・課題

- ・地域に住む一人の女性が「大砂地区に気軽に集まる場所があればいいのに…」とつぶやいていたことが、令和 5年 2月に開催した地域支えあい会議のグループワークで取り上げられた

関わり

- ・代表者からの相談対応、住民の打ち合わせの場への参加
- ・ふれあいサロンなどの集いの場立ち上げに関する情報提供
- ・サロン立ち上げ後に広報誌での周知、支えあい会議での活動発表の提供

効果

- ・昔からの地域にあるつながりを活かして、みんなが気軽に集まり交流ができる集いの場（ふれあいサロン）ができた
- ・外出のきっかけとなり、地域住民同士のつながりが期待できる

SCの関わりで心がけたこと

- ✓ 住民同士の話し合いに参加するなど、地域性の把握と住民の考えに寄り添うことを心がけた
- ✓ 新たな集まりが無理なく継続していくことを意識してもらい、全員が納得するカタチで進めていった



Case02 コミュニティスクール(CS)との関わり

～社協との連携にむけて～

コミュニティスクールとは……

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 47条の5に規定する学校運営協議会を導入している学校のことをいいます。コミュニティ・スクールは、学校運営に対して保護者や地域住民が参画し、学校運営協議会を通して教育に対する課題や目標を共有し、熟議することで、地域と一体となって子どもたちを育む学校づくりをすすめる仕組みです。

ニーズ・課題

- ・CSメンバーから事業を進めていくにあたり、地域やボランティアなどの情報提供や関係者との連携などの協力をしてほしいとの要望があった

関わり

- ・CS(全体会議、大曾根小)会議への出席
- ・シルバークラブへの事業説明および協力の調整
- ・CSの取り組み(挨拶運動)への参加

効果

- ・学校の現状を知ることができ、学校とのつながりもできた
- ・それぞれの事業・関係者が連携することで相乗効果が期待でき、今後も協力しあえる関係構築ができた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓ 学校の現状や課題を把握し、各小学校区の CS活動に対する取り組み方や考えを理解するように心がけた
- ✓ CS活動と社協が連携できること、今後につながることは何かを意識して活動に参加した



第1回 地域の見守りについて



【ねらい】

- ・見守り活動と地域活動が連動している事例を聞くことで、参加者それぞれが地区の状況をイメージし、見守り活動の必要性や具体的な見守りの方法について考える機会とする
- ・地域が抱える課題に気づき、地域での見守り活動への意識の高まりを目指す

【工夫】

- ・前回アンケートをもとに、コアメンバーと振り返りを行いテーマを決めた
- ・ふれあい相談員が積極的に地域との良好な関係を築くことができている事例を選出し、報告してもらった
- ・グループワークの時間を多くとり、関係者同士が自由な雰囲気ではしゃげる場としている

【内容】

- * 事業概要説明
- * 活動報告
～地域の見守りについて～（樺本地区）
- * グループワーク
 - ① 「地域の見守り」足りてますか？
 - ② あるといいな？と思う資源やつながりは？

【参加者の意見】

- ・見守りに関する事業があることを初めて知ることができた
- ・他の地区で行われている活動を知ることができて良かった
- ・気軽に話ができる交流の場（井戸端会議）が大事で、いろいろな人との意見交換ができて良かった

第2回 多世代交流事業について



【ねらい】

- ・他地区の活動事例を聞き、地域に暮らす様々な世代と交流するためにどのようなことができるかを知ってもらう
- ・関係者が多く集まり、ともに活動することで、活性化につながることを知る
- ・自分の地区にあてはめ、取り入れることが出来るようなことを一つでも持って帰ってもらう

【工夫】

- ・区長全体へ参加の呼びかけを行った
- ・誰でも会議に参加できるようチラシを作成し広く周知した
- ・事例報告では、目で見てイメージをもってもらえるよう、イベントの写真を見ながら発表してもらった

【内容】

- * 事業概要説明
- * 事例報告「地域活動について」
～三世代交流イベント～（遠東地区）
- * グループワーク
 - ① 各地区の活動で増えたもの・減ったもの
 - ② 地域のつながりを強めるために地域でできそうなこととは？

【参加者の意見】

- ・年に1度でも地域で顔を見て楽しく活動をする機会やイベントがあると良い
- ・つながりが薄れていることを実感しているので、まずは挨拶から始めたい
- ・地域活動について考えるきっかけになったので、できることから始めたい



▲話し合いの様子

Case01 地域交流スペースを地域のたまり場に

～タームズふれあいサロンの開設支援～

ニーズ・課題

- ・昔ながらのお茶飲みや井戸端会議等が少なくなってきた
- ・訪問看護事業所が立つ際、一階を地域交流スペースとして活用してほしい思いがあったが、地域住民との交流がなく一年間活用されていなかった

関わり

- ・コアメンバーに紹介、活用に向けての準備を進める
- ・集いの場の内容検討を運営メンバーと行い、その他の協力者との連絡調整、実施に向けた具体的な準備を支援する

効果

- ・関わりが少なかった人達をつなぐ交流の場がうまれた
- ・イベントを実施することで、歩いて行ける範囲に活用できるスペースがあることを知らせることができた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓運営メンバーがやりたいことについてアイデアを出し、出来ることから間を置かずに始めたこと
- ✓参加者が楽しく参加できる内容と運営メンバーの負担が大きくなりすぎないようなバランスを保つこと



▲県民の日は学校が休み！たくさんの小学生が遊びに来てくれました ▲大人も楽しめるメニュー（体操やクラフト講座）

Case02 公民館で季節を感じる交流を

～本金村ミニふれあいサロンの活動支援～

ニーズ・課題

- ・地域に元気な高齢者は多くいるが顔を合わせる機会が減ってきている
- ・交流の機会を増やすことで地域の住民同士のつながりを強くしたい

関わり

- ・昨年度に引き続き助成金事業の申請、講師の派遣等の情報提供や調整を行う
- ・開催日当日の参加を通して、必要な情報共有・情報提供を行った

効果

- ・季節に合った行事の開催や、食を通して楽しい時間を過ごすことができる
- ・参加者の希望を聞き、助成金をやりくりしながら工夫して交流している
- ・参加者だけでなく地域にいる協力者との連携の機会となっている



▲お正月準備をみんなで！

▲出前講座も活用！

▲みんなで食べるご飯がおいしい

SCの関わりで心がけたこと

- ✓地域のつながりや特性を損なわないように、側面的に関わる
- ✓目的ややりたいことを共有・把握しながら、必要時に関わられるようにした



第1回 身近な“居場所”について

【ねらい】

- ・小学校区単位の班で情報交換を行い、身近な「居場所」について考え知る機会とする
- ・身近な人とのつながりや、すでにある活動が「居場所」になっていることを意識してもらう
- ・話し合いで「居場所」について知った情報・考え方を地域に持ち帰り広げてもらう

【工夫】

- ・コアメンバー会議を実施し、第1回のテーマを決定
- ・新しい参加者を増やすためにチラシを作成し、広く周知を行った
- ・地域内の様々な活動を知ってもらうために、活動の異なる3団体を選出し、発表を行った
- ・テーマについての話し合いが活発になるように、小学校区ごとの班分けを実施した



【会議の流れ】

* 事例発表

- ① 緑粋クラブ（緑ヶ丘）
- ② オレンジカフェ ゆう（みどりの）
- ③ みんなの食堂やたべ（谷田部）

* 意見・情報交換

- ① 自己紹介と発表の感想
- ② 身近にある“居場所”について

* 地域福祉ADからのアドバイス

【参加者の意見】

- ・すでに地域の中に交流を深める活動（つながり）がある地区では、今あるつながりを大切に継続していきたい
- ・近年開発された地域では、移り住んできた人が多く、地域とのつながりを持っていない人が多いため、子どもや子育て世代を巻き込んでいくことが必要ではないか
- ・井戸端会議などが大事な居場所になっているように、“人同士のつながり＝居場所”である

第2回 多世代の交流について

【ねらい】

- ・世代間のつながりについて考えてもらう
- ・地域活動を継続していくための工夫や新たな取り組みについて知る
- ・情報交換を通して、広く地域のことを知る

【工夫】

- ・アンケートを実施し、関心の高かった「多世代の交流」をテーマに設定した
- ・団地の中で長く工夫をしながら続けてきた地域交流の事例発表と、企業が行っている地域交流の事例発表を行った
- ・お互いの取り組みが参考となるよう、地域をまぜて意見交換を行った



【内容】

* 事例発表

- ① みずほ団地 多世代交流
「0歳から96歳までつながる団地」
- ② エンボス企画（みどりの）
「マルシェ88における多世代交流」

* 意見・情報交換

- ① 自身の地域の世代間の関わりについて
- ② 地域の中で、世代を超えた顔見知りをつくるためのアイデア

【参加者の意見】

- ・コロナ禍で切れたつながりをどう戻すかが難しい
- ・発表者の話から、食べること、趣味を通しての活動でつながりをつくっていくことが大切だと思った
- ・おはよう、こんにちば、こんばんはと大きい声で挨拶をすることがコミュニケーションの原点である
- ・老人会や子供会がなくなっている地域もあるので、集いの場を優先して作っていかなければならない

SCが関わった事例紹介

Case01 こどもたちと地域住民の世代間交流の継続！

～香取台小学校児童クラブと地域住民のカーレット交流支援～

ニーズ・課題

- ・香取台小学校付近の地域では、新たに移り住んできた人も多く、世代間の交流が少ない状況があった
- ・香取台小学校児童クラブから、高齢者とのカーレット交流の話があったことをきっかけに、令和5年度にカーレット交流を実施した
- ・カーレットを通じた交流と交流から生まれたつながりを続けていきたいとの声があった

関わり

- ・ボランティア、児童館との調整
- ・令和5年度よりもつながりを広げるため、交流会の周知のチラシを作成し、シルバークラブやふれあいサロンなどに声掛けを行った

効果

- ・地域住民と小学生がつながる機会、交流の場を継続することができた
- ・新たなボランティア(協力者)も増え、つながりを広げることができた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓令和5年度に実施した交流を継続、より広げることを心がけた
- ✓ニックネームを用いるなど、短い時間でも親しみが持てるようコミュニケーションの取りやすさを心がけた



Case02 いまあるつながりを生かしてみんなの集いの場に！

～ふれあいサロン「サロン・フルール」開設支援～

ニーズ・課題

- ・谷田部地区では、高齢者が多いが、サロンなどを通じた見守り活動や交流の場など、地域に開かれた場が少ないことが課題としてあった

関わり

- ・地域の課題やふれあいサロンの存在・考え方を知らせるなどの働きかけを行った
- ・開かれた集いの場について必要性を感じて、すでにあった地域の集まりを開かれた集いの場＝ふれあいサロンにしていくことになり、支援を行った

効果

- ・地域に開かれたことで、一部の人だけでなく、誰もが参加できる場となった
- ・地域に新たなつながりができ、サロンを通じた見守り、介護予防にもつながった

SCの関わりで心がけたこと

- ✓地域の課題を共有し、すでにある地域のつながりを生かして、新たなつながりに広げる意識をもってもらえることを心がけた
- ✓地域の特性や住民の想いを確認しながら支援を行った



第1回 それぞれの取り組みから ヒントを得よう！



【ねらい】

- ・地域活動を「一歩」進める
- ・専門家からのアドバイスを元に自分たちの活動を振り返り今後に活かす

【工夫】

参加者に今後のヒントとなるものを持って帰ってもらうため、事例報告では、成功事例だけではなく、課題や悩みについても話してもらい、地域福祉 ADからのアドバイスをもらう流れにした。

【内容】

- * つながろう！ざっくばらんにお話タイム
- * 活動発表タイム～それぞれの取り組みからヒントを得よう！
 - ①葛城小地区つなぐ会
 - ②東小学校区きずなネットワーク運営協議会
 - ③春日の森NET
 - ④けんがくふらっとカフェ
- * 地域福祉ADからのアドバイス
- * 番外編(希望者のみ) 生活支援体制整備事業って何？勉強会

【参加者の意見】

- ・どの地域も担い手の課題がある。新しい方たちの想いをカタチにしていくことで、少しずつ世代交代をしていくことが良い
- ・他の地域の活動を参考に自分たちの活動を考えたい。カフェは取り組みやすく、面白そう！
- ・多世代の方(若者・子育て世代)様々な方に活動に参加してもらうためには、みんなが楽しいと思える場づくりが必要なのだろうと思った

第2回 学生さんと交流しよう！スペシャル



【ねらい】

- ・「担い手」の課題解決の一助とする
- ・若者世代と地域がつながるきっかけをつくる
- ・若者に地域活動に参加してもらうために、具体的にどんな工夫が必要か？を考えるため、まずは若者のキモチを知る！

【工夫】

- ・学生と関わりのある団体と連携して協議体を開催した(T-ACT推進室、かざぐるま)
- ・連携の第一歩として、まずお互いの考えを知るために、交流の時間を中心に協議体を構成した

【内容】

- * (希望者のみ自由参加): ざっくばらんにお話タイム
- * 第1部: 勉強会
 - ①筑波大学T-ACT推進室
 - ②筑波大学かざぐるまの取り組みについて
- * 第2部: 交流・情報交換会

【参加者の意見】

- ・地域も学生もそれぞれ接点を持ちたいと考えていることがわかった。連携のハードルは意外と低いかも！
- ・学生が行動を起こす際に、助けになりそうな情報・ネットワークがあればほしい
- ・地域と学生双方が持つ情報を共有できるツールがあると良い

SCが関わった事例紹介

Case01 関係機関と連携し、生活支援サービスの住民の理解を深める！

～つくたくの使い方講座の開催～

ニーズ・課題

- ・話し合いの場の中で、集いの場への参加、買い物・外出等の際の移動手段の確保に課題を感じている地域が多いことがわかった
- ・「つくたく」の運営会社より利用促進に向けたPRをしたい旨の相談が社協に対してあった

関わり

- ・集いの場に向けて「つくたくの使い方講座」の案内
- ・講座の開催を希望する団体と運営会社間の調整
- ・周知用のチラシ作成

効果

- ・谷田部東圏域内で7カ所のふれあいサロン、集いの場で講座を開催
- ・運営会社の方から直接説明を聞き質問できる場をつくることで、住民の理解を促進することができた。講座を聞いて、実際の利用につながったとの報告も



SCの関わりで心がけたこと

- ✓ 既存の仕組みを活かす→生活支援の仕組みをつくることは難しいが、今あるものを活かすことはできる！
- ✓ 良い仕組みなので、「正しく」理解してもらう→ 担当者の顔が見えて、直接話をできる場をつくることで、つくたくに対する「使いづらい」という住民の先入観を払しょくできるようにした。



Case02 同じ想いを持つ活動者同士をつなぐ！

～ふらっとカフェ交流会の開催支援～

ニーズ・課題

- ・昨年市内のスターバックスコーヒーを会場に立ち上がった「けんがくふらっとカフェ」を参考に、10月から「かくもりふらっとカフェ」が開始。「ふらっとカフェ」の取り組みが市内4カ所に広がっている(谷田部東圏域2カ所、桜圏域2カ所)
- ・現在それぞれに活動を進めているが、同じ想いを持って活動する人たちをつなぐことで、前向きに活動を進められるようになったり、活動の中での課題解決にもつながるのではないかと考えた

関わり

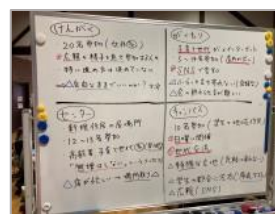
- ・桜圏域SCと連携し、「ふらっとカフェ交流会」を開催。4つのカフェの運営に関わる住民同士が集まり話をする機会づくりを行った

効果

- ・活動者同士がつながり、情報共有をする機会を作ることができた。それぞれ活動する場所は異なっても、「お互い頑張ろう！」という機運が作れたと感じている。
- ・ふらっとカフェの取り組みに協力してくれている学生にも関わってもらうことで、課題の分析にもつなげることができた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓ SC間、関係者との連携→圏域・役割を超えて連携することで1人のSCだけではできない取り組みも可能に！
- ✓ 地域住民が活動を前向きに進められるような工夫を考える→ 自分達の活動の意義を再認識したり、同じ想いを持つ「仲間」がいることを実感することで、今後の活動も頑張ろう！と思えるような場になるよう意識した。



第1回 つながりで支える、地域の見守り



【ねらい】

- ・他の地域で行われている見守り活動を知り、活動のヒントを自分の地域に持ち帰ってもらう
- ・参加者同士のつながりを作り、地域で連携した見守りにつなげる

【工夫】

- ・住民主体の会議とするために、会議内容を住民（コアメンバー）とともに協議
- ・地域によって考え方や状況が異なるため、様々な種類の事例を紹介
- ・地域福祉アドバイザーに参加いただき、地域活動へのアドバイスをいただいた

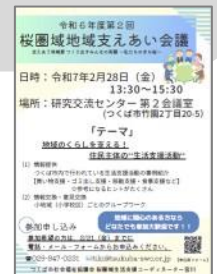
【内容】

- * 令和5年度振り返り
- * テーマ別情報交換「見守り・声かけ」事例発表
 - ① 自主防災組織を軸とした地域の見守り（桜ニュータウン）
 - ② ふれあい相談員の取り組みについて（並木）
 - ③ すぐに始められる見守り活動
- * グループワーク
 - ① 活動の共有（課題・悩みなど）
 - ② アイデア出し
- * 地域福祉アドバイザー（和先生）による地域活動へのアドバイス

【参加者の意見】

- ・地域の特色を活かし、交流イベントなどを行い地域の関係性を再構築することが見守りに繋がると思う
- ・散歩の時やゴミ出しの際など日常の中でのささやかな見守りから始めることが重要（できることから始める！）
- ・他の地域の活動を知ることができ、自分の地域の活動に活かすことができそう

第2回 地域のくらしを支える！生活支援活動



【ねらい】

- ・地域で行われている生活支援活動について確認、共有する
- ・これから求められいく生活支援活動や、地域で行っていききたい生活支援活動について考え、アイデアを出し合い、活動につなげる

【工夫】

- ・前回の会議をコアメンバーと振り返りを行い、会議内容について検討した
- ・活動のイメージがつきやすいように、市内で行われている様々な生活支援活動を紹介した

【内容】

- * 生活支援体制整備事業について
- * 桜圏域地域支えあい会議の振り返り
- * テーマ別情報交換会「生活支援活動」
 - ・つくば市内で行われている生活支援活動の事例共有
- * グループワーク
 - ① 地域で行われている生活支援活動の共有
 - ② これから地域で求められていく生活支援活動および行っていききたい生活支援活動についてアイデア出し

【参加者の意見】

- ・サロンでの見守りも、広い意味で言えば生活支援活動だと思う
- ・多世代が関わるような仕組みがあれば、生活支援についても色々な意見やアイデアが出てきそう
- ・生活支援活動のみでなく地域活動を始めるとおいては、信頼関係の構築が必要

SCが関わった事例紹介

Case01 食堂から地域のつながりを再構築～さくらんぼ食堂の開設支援～

ニーズ・課題

- ・コロナウイルスの影響などで地域イベントが少なくなり、地域の繋がり希薄化が問題としてあった。交流の機会を増やすことが課題としてある中で、交流の拠点として地域食堂開設の相談があった。

関わり

- ・運営メンバーと打合せ、連絡調整、実施に向けた準備
- ・助成金情報や、地域食堂の取り組みについて情報提供
- ・周知用のチラシ作成、参加者募集フォームの作成

効果

- ・新たな地域交流の場が生まれた
- ・外出のきっかけとなり、地域の顔見知り広がる期待ができる

SCの関わりで心がけたこと

- ✓運営メンバーの想いをよく聞き、目標に向かって一緒に考えることを心がけた。
- ✓既存で行われている地域食堂の取り組みを調べ、活動のヒントを情報提供した。



Case02 民間企業とタイアップした集いの場

～つくばセンターふらっとカフェ・キャンパスふらっとカフェの開設支援～

【つくばセンターふらっとカフェ】

@スターバックスコーヒー トナリエキュートつくば店

【キャンパスふらっとカフェ】

@スターバックスコーヒー 筑波大学中央図書館店

ニーズ・課題

- ・開催場所である吾妻は移住者が多い
- ・昔から続く集いの場も多いが、後から入るのは勇気がいるという方や、登録制をハードルに感じる方もいる
- ・けんがくふらっとカフェ(谷東)を参考に誰でも気軽に立ち寄れる場を作りたい
- ・学生とのつながりは地域住民にとって貴重という住民の声
- ・住民との関わりを欲している学生も多い
- ・日常的に学生と交流できる場があれば、桜圏域ならではの特徴的な集いの場になると考えた

関わり

- ・住民との打合せ(立ち上げる集いの場の趣旨と目的を意識合わせ)
- ・つくば市地域包括支援課とともに民間企業との交渉
- ・周知用のチラシ作成支援

効果

- ・幅広い年齢層の参加があり、自然と多世代交流の場となっている
- ・転居してきたばかりの方にとっての居場所となることができた
- ・大学がある桜圏域ならではの特徴的な集いの場ができあがった
- ・民間、関係機関、住民、学生が連携し支えあう仕組みづくりができた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓つくば市地域包括支援課をはじめ関係機関、他圏域SC同士の連携
- ✓目的や目標の共有をし、開催後に振り返りの時間をつくった
- ✓運営側の負担もできるだけ少なく、楽しめるような居場所を心がけた



第1回 多世代の関わりや交流を考える

【ねらい】

- ・筑波地区内の課題である、子どもたちや若い世代の減少や関わりの薄れについて、他地区の取組や工夫からヒントを得る

【内容】

- * コミュニティスクールの取組を知る
 - ・学校が取組む地域との連携とは！？
- * 情報交換
 - ①自分の住む地域の、世代間の関わりについて
 - ②世代を超えた交流の第一歩 交流のアイデア

【工夫】

- ・誰でも会議に参加できるようチラシを作成し地域に広く呼びかけを行った
- ・他地区の取組を参考にできるよう、あえて地域を混ぜて情報交換を行った
- ・出されたアイデアなどをきっかけづくりにつなげていけるよう、検討会の呼びかけを行った

【参加者の意見】

- ・賑やかに祭りが開催されることが地域の交流に繋がる！工夫をしながら祭りや運動会、食を通じた交流を継続しがんばっている地区もある
- ・お囃子など同じ目的や活動を通じた交流も効果的である
- ・地域の好きなところをスマホで撮影し集会所に展示したり、昨年開催した防災イベントを継続してみるのも良い！？



第2回 2.16開催！筑波地区防災イベントをみんなで盛り上げよう！

【ねらい】

- ・今までの話し合いに参加していなかった方々にもこのイベントの趣旨等を知る機会とし、地域の防災意識の啓発や地域交流への関心につなげるための検討の機会とする
- ・内容の共有やイベントをよりよくするための話し合いを行い、みんなが一丸となってイベントに臨めるよう意思統一の機会とした

【工夫】

- ・今まで話し合いに参加してきた方も、初めて参加した方も、同じ理解のもとに意見交換や内容の確認ができる機会となることを心がけた
- ・幅広い世代が楽しく防災に触れる機会とするため、用意した防災クイズ等を自分たちも挑戦し、意見交換を行った



【内容】

- * 開催内容の確認と共有
- * 情報交換
 - ①イベント内容の詳細を共有・確認しよう
 - ②たくさんの方にイベントに来ていただくためには
- ※参加いただく方に防災を知り、より交流や意見を聞くための工夫について

【参加者の意見】

- ・防災を考えるには難しい小さい子どもたちにも楽しいコーナーを用意し、親子で楽しく参加して欲しい
- ・アンケートの回収率を高めて多くの意見を参考にするために、スタンプラリーの台紙の裏面をアンケートに活用し、景品交換の前に記入してもらう流れを作ると紙の節約にもなり良いのではないかと

Case01 復活！学校行事で高齢者とこどもたちの交流をつなぐ

～秀峰義務教育学校1学年と地域の方々との昔遊び交流支援～

ニーズ・課題

- ・地域の話し合いや住民との会話から、学校の統廃合により以前あった学校と地域との繋がりが途絶え、地域の交流の減少にも影響している状況があると感じていることが分かった

関わり

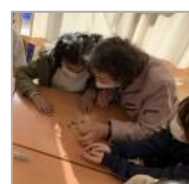
- ・義務教育学校を訪問し、学校が取組むコミュニティスクール活動の中で地域住民との交流の場面づくりについて相談した
- ・シルバークラブや地域の方々から昔遊びの協力者情報を集め学校に情報提供し、依頼を受け調整を行った

効果

- ・世代を超えた交流の機会を持ち、楽しい時間を共有することができた
- ・以前のように学校と地域が関わるきっかけの第一歩となった

SCの関わりで心がけたこと

- ✓次に繋がるよう、子供たちも高齢者も楽しく交流できる機会になるよう心掛け、学校の負担が大きくなりすぎないように調整に努めた
- ✓子どもたちの特性や対応時の注意点などについて、事前に関係者と共有し交流に臨んだ



Case02 住民同士や多世代交流、防災を知るきっかけに！

～筑波地区防災イベントの継続開催を支援！～

ニーズ・課題

- ・地区のことは区会が中心となり話し合う場がある筑波圏域は、筑波地区全体のことに目を向け、共通の課題である防災意識の啓発の必要性和、世代を超えた交流の減少について着目し昨年より取組みを行ってきた
- ・筑波地区のために話し合い、決定し、実行する場を住民同士が共感することで、地域力の再確認の機会に繋がりたいと感じた

関わり

- ・きっかけづくり検討会を開催し、地域の方々話し合い、昨年に引き続き「筑波地区防災イベント」の開催を決定した
- ・イベント開催に向け理解・協力者を広げるため、区長、民生委員、地域関係者等に幅広く検討会の経過を知らせ拡大に努めた
- ・地域の人達のイメージや希望の実現に向け、協力機関の調整を行った

効果

- ・企画・運営する住民も、参加する住民も双方が楽しい気持ちを持って事業に関わり、参加する様子を感じることができた
- ・2年続けて事業を行ったことで、企画・運営として参加する地域住民や地域団体の出展が増えた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓次もやってみたい！と感じてもらえるよう、誰かだけが負担を背負いすぎず、みんなで考え、みんなで準備し、みんなで実行する！を後押しした
- ✓いろいろな役割、年齢などに関係なく、自由に意見を出し合ったり、活動できる雰囲気づくりに努めた



第1回 地域で行われている見守り活動



【ねらい】

- ・荃崎圏域で行われている見守り・声掛け活動について、2つの事例発表を聞くことで、自分たちの地区では何ができそうか考えるきっかけとする

【工夫】

- ・会議開催にあたり、コアメンバー会議を実施し、住民主体のもと、会議内容・方針を決定した
- ・チラシ配布による周知方法へ変更し、誰でも参加可能な会議とした
- ・2つの事例発表により、取組み方は様々であることを知ってもらえるようにした

【内容】

- * 生活支援体制整備事業説明
- * 地域見守りネットワーク事業ふれあい相談員について
- * 事例発表
 - ① 森の里地区の見守り活動
 - ② 梅ヶ丘地区の見守り活動
- * グループワーク
 - ① 自分の地区の活動について共有
 - ② 見守り活動としてできることのアアイデア出し

【参加者の意見】

- ・取組について知らないことも多く、知るきっかけとなったので、広めていくことが大切
- ・一人で活動することは難しい、自治会を巻き込みながら、多数の目で見守っていきたい
- ・個人情報取り扱いなど課題もあるが、お互いの信頼関係を築いていくことが見守り活動をしていくうえで重要である

第2回 今ある資源を上手に活用するために



【ねらい】

- ・ふれあいサロンやシルバークラブなどの活動の他、つくば市で行っている高齢者支援事業(資源)について知ってもらう場とする
- ・資源を知るきっかけの場とし、「今ある資源を有効活用するには」という視点で話し合いを進める

【工夫】

- ・地域で取組まれている活動や事業について知らないという意見が聞かれることから、この会議では今ある資源を広く知る場とした
- ・実際に活動されている方からの話も聞くことで、活動のイメージが付きやすいようにした

【内容】

- * 生活支援体制整備事業説明
- * 活動紹介
 - ① 地域見守りネットワーク事業(ふれあい相談員)
 - ② シルバークラブ活動
 - ③ ふれあいサロン
- * グループワーク
 - ① 地域の活動がどのように有効活用されているか
 - ② 今後活動がさらに広まっていくためのアアイデア出し

【参加者の意見】

- ・継続して活動していくことが大切
- ・ゆるやかなつながりでも十分であり、日頃から顔を合わせていることが大切なので、集いの場は知り合いを増やすという点で効果的
- ・マナー化や次世代へ引き継いでいく心配など共通の課題も多い
- ・元気がなくなってしまった方へ向けた活動も必要

SCが関わった事例紹介

Case01 住民主体の交流会開催に向けた伴走型支援

～荻崎ボランティアふれあい交流会の開催～

ニーズ・課題

- ・荻崎のボランティア団体で組織されている荻崎ボランティア連絡会が主体となって開催しているものであり、社協との共催に向けた相談があった

関わり

- ・打合せを重ね、こういったテーマ・内容とするか話し合いを行った
- ・住民がやりたいと思っていることから、適した内容の講座やメニューを提案
- ・講師との連絡調整や周知用のチラシ作成

効果

- ・多くの参加者が集まり、荻崎ボランティア連絡会の活動を広めるきっかけとすることができた
- ・ボランティアのみならず、地域住民との交流を図ることができた

SCの関わりで心がけたこと

- ✓運営メンバーの思いをくみとり、要所で支援・提案することで、住民主体の大きな交流会として成功できるよう心がけた
- ✓運営側としてもためになる話を聞け、地域住民とともに楽しめることができたようにした



▲当日の司会進行等も住民主体で開催！

Case02 地域住民で行う食事サービスの実施に向けて

ニーズ・課題

- ・地区の民生委員から、食事サービスを荻崎圏域で実施してみたい、地区の食生活改善推進員もやる気があるので、何か始められないかと相談があった

関わり

- ・以前は社協事業として行っていたため、地域住民独自で何ができるか話し合いを行った
- ・会場や運営費用、ボランティアの確保、運営方針など打ち合わせ
- ・助成金の案内及び申請手続きの支援

効果

- ・食事を提供することを通して、高齢者の見守り活動、安否確認、孤独感の解消につながる
- ・食事ボランティア側も社会活動への参加による閉じこもり防止の効果がある
- ・高齢者への栄養バランスの取れた食事提供ができる

SCの関わりで心がけたこと

- ✓負担感を軽減しつつ、地域住民のやる気を大切にするために、まず最初はできる範囲から始めるイメージを共有しながらすすめた
- ✓事務作業はSCで行い、調理関係の話や協力者探しは地区の方におまかせすることで、それぞれの得意分野を活かしながら役割分担をしていった



◀事前打ち合わせや調理室の確認をして、開催に向けて準備を進めた

第4章 今年度の振り返りと来年度に向けて

大穂圏域（大塚）

今年度の振り返り	来年度に向けて
今年度は2年目でしたが、大穂圏域内の活動をさらに知ることができ、より多くの地域の方々と関わることができました。少しずつではありましたが、話し合いの中であがった皆さんの“やってみたいこと”と一緒に取り組むこともできました。SCとしての活動や考え方を広げた1年でした。	・大穂圏域で関心の高いテーマについての話し合いや講話などを実施していきます。 ・地域支えあい会議について、コアメンバーと相談しながら、新たな参加者を取り込むなどの変化を加えてことを目指します。 ・今年度あがった意見や進めていた取り組みが、具体化していくように伴走支援していきます。

豊里圏域（長岡）

今年度の振り返り	来年度に向けて
豊里圏域担当2年目で、地域の風景や出来事、顔見知りもどんどん増え、色々なことにピンとくることが出来た1年でした。地域の方々からお話を聞く機会も増え、暖かさや豊かさに触れいつも癒されています。コアメンバーをはじめとする地域の方々には時間のない中、SCの無茶ぶりに応えていただき改めて感謝です。	・今年度積み上げたものを継続したり、良い取り組みなどを広げたりすることが出来るよう、コアメンバーと相談しながら支えあいの地域づくりを目指していきます。 ・大小関係なく地域活動の芽を把握することが出来るよう、情報収集のアンテナを高くしていきます。 ・地域の方達の話しをよく聞き、思いを汲み取りながら伴走支援ができるよう努めていきたいと思ひます。

谷田部西圏域（堤）

今年度の振り返り	来年度に向けて
谷田部西圏域担当も2年目となりました。地域の状況や、より地域をよくするための考えなど、昨年よりも多くのの方々から地域への想いを伺い、知ることができた1年でした。地域の活動等においても、たくさんのご協力や後押しをいただきました。ありがとうございました。	・皆さまと話しあいながら、地域のつながりづくりを働きかけていけたらと思ひます。 ・SCとして様々な地域の活動を知り、広報誌やSNSを通じて皆さまに広く周知していけたらと思ひます。

谷田部東圏域（荻生）

今年度の振り返り	来年度に向けて
今年度は「連携」と「ネットワークづくり」をテーマに、地域での取り組みを展開しました。SCが地域の中で想いを持つ住民とつながること、想いを持つ地域同士をつなぐことで、より活動が広がり、深まっていくことを実感しました。住民の地域に対する前向きな想いに触れ、SC自身が地域に支えられていると改めて感じた1年でした。	・第2層協議体が、住民の皆さんの「こんなことをやりたい」「こうなったらいいな！」の実現につながる場になるよう、参加者や関係者のアイデアや意見を積極的に取り入れていきたいです。 ・地域で活躍される皆さんが、同じ想いをもって活動している他地域の方達とつながることで、自分たちの活動を前向きに進めていけるよう、「活動者同士が地域を超えてつながる場」づくりをしていきたいと思ひます。

桜園域(宮川)

今年度の振り返り	来年度に向けて
担当2年目となり、園域内の様々な活動に積極的に関わり、地域の実情を理解することができました。住民の方々と関係機関との連携も強化され、顔の見える関係性を築けたことで、よりスムーズな支援に繋がったと感じています。支えあいの地域づくりに向けた活動を通して、微力ながらも貢献できたことは大きな喜びです。	・住民が取り組みたいことの具体化に向け伴走支援していきます。 ・園域内の地域ごとの課題に対応するため、小地域会議の開催回数を増やしていきます。 ・地域支えあい会議などの話し合いの場について、引き続き住民と一緒に内容や構成を考え、工夫を加えていきます。

筑波園域(難波)

今年度の振り返り	来年度に向けて
筑波園域2年目となり、地域活動の中でお会いするみなさまもお互いに顔と名前がわかる関係づくりができるようになりました。2回目の開催となった「筑波地区防災イベント」には、たくさんの方々が企画・運営に携わっていただき、間近で活発な意見交換や手際のよい準備や対応に接し、改めて筑波地区のパワーと底力を感じました。事務局からの様々な相談やお願いにも快く力を貸していただき、みなさまの温かさに見守られながら、伸び伸びと楽しく活動ができました。地域のみなさま本当にありがとうございました。	・地域に共通する生活課題について、地域のみなさまと話し合い、できることを考えていけたらと思います。 ・アンテナを高くして地域の様々な活動をキャッチし、活動の場に伺いたいと思います。 ・引き続き、筑波地区に必要なことを地域のみなさまと一緒に考え、形にできるよう頑張ります。

荃崎園域(小倉)

今年度の振り返り	来年度に向けて
荃崎園域には、地区独自のイベントも多く、昔ながらの活動が今も継続されているところも多くあります。みんなが集まれる機会や場所があることで、昔ながらの顔を合わせた関係性が今も続けられていると改めて感じました。 地域の皆さまは年齢を感じさせないくらい活動的であり、こちらが元気をもらっていたくらいです。生活支援コーディネーターとして勤められたのも、地域の皆さまのお力添えがあったからだと思います。多くのことに協力していただき感謝しております。	・積極的に地域に足を運ぶことで、地域の取り組みを把握したりお話を伺ったりすることで、参考になる取り組みはどんどん紹介していくなど、情報発信をしていきたいです。 ・地域の皆さまが「やってみたい」という声を拾いあげ、実現していけるよう提案・支援をしていきます。

【来年度に向けて ～SCとして意識して取り組むこと～】

- ・引き続き地域の特色やペースを大切に、地域の皆さまに寄り添った支援を行っていきます（伴走支援）
- ・地域の課題や新たなアイデアが活発に出し合える、より良い話し合いの場になる工夫をしていきます（話し合いの場の工夫）
- ・関係機関などと連携しながら、幅広い支援につなげていきます
（関係機関との連携）

おわりに

地域福祉アドバイザー

田園調布学園大学 和 秀俊

現在の日本の社会保障制度は一人で一人を支えるという肩車型であるため支え手の負担が非常に大きくなっており、制度だけで対応することが困難になってきております。そこで、誰もが安心して安全に暮すことができる地域共生社会を実現するために、介護保険法や社会福祉法などの法制度を改正し、地域の基盤づくりとして生活支援体制整備事業が創設されました。今まで社会福祉協議会が地域住民と一緒に取り組んできた地域づくりが、日本の社会保障制度の重要な課題として位置づけられ、生活支援体制整備事業の生活支援コーディネーター（以下、SC）は地域の基盤づくりの専門職としての役割を期待されております。

令和 4 年度から地域福祉アドバイザーとして、主に生活支援体制整備事業の SC と一緒に、つくば市の地域福祉に取り組んで参りました。地域福祉とは、地域の福祉課題を地域で一緒に解決する仕組みであり、社会福祉協議会は重要な担い手です。各圏域の SC がつくば市 7 圏域の地域性や地域住民の特性、歴史、文化などの違いに戸惑いながらも、それぞれの地域に丁寧に寄り添い地域住民と共創している取り組みは、まさしく地域福祉そのものであると思います。各圏域の SC がそれぞれの地域の住民に寄り添い、ニーズを丁寧に把握し、仕掛け、地域住民の協議する場をつくり、多職種・多機関と連携しながら地域住民と伴走して取り組んでおりました。これこそが、各圏域の SC が専門性を発揮し、生活支援体制整備事業において期待される役割を十分に果たした成果であると思われます。

以上のように、SC は各圏域における住民主体の地域づくりにおいて不可欠な存在であります。本事業における様々な課題にも真摯に向き合い、地域住民に寄り添い続け、いかにして住民主体の取り組みを進めることができるかについて日々模索しております。そこで、地域福祉アドバイザーとして、SC の抱えている課題や悩みに寄り添い、専門職としてのさらなるスキルアップや各圏域の SC 全員でチームとして取り組むことができるように今年度も一緒に歩んで参りました。これらの成果が、今後のつくば市の生活支援体制整備事業に生かされ、より一層住民主体の取り組みが充実することを期待しております。

3 年間、地域福祉アドバイザーとして SC と一緒につくば市の地域福祉に取り組ませて頂き、多くの成果とともに幾つかの課題も見えて参りました。今後も、SC に寄り添いながら、これらの課題と一緒に取り組んでいきたいと思っております。つくば市の地域共生社会の実現に向けて、引き続きつくば市社会福祉協議会とともに生活支援体制整備事業および SC のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 3 月吉日

つくば市 福祉部 地域包括支援課

〈問合せ先〉

社会福祉法人つくば市社会福祉協議会

〒300-3257

つくば市筑穂1-10-4 大穂庁舎内

☎ 029-879-5500

✉ tiki@tsukuba-swc.or.jp